

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験－

1. 今後の見通し

予測期間：2005年10月下旬から12月上旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量：10月下旬以降も減少を続け、11月上旬には低位水準となる。11月下旬以降は断続的となる。

(2) 漁場：10月下旬の漁場は、厚岸～釧路沖と襟裳岬周辺～襟裳岬南沖にかけて広範囲に分布する。11月上旬以降は襟裳岬南沖に漁場が残るが、徐々に断続的となる。11月下旬は、漁場が出来ても断続的となり、終漁となる。

2) 三陸海域

(1) 来遊量：10月下旬～11月中旬は、中位水準を持続する。11月下旬から減少傾向となり、12月上旬は低位水準となる。

(2) 漁場：10月下旬は八戸～釜石沖が主漁場となるが、金華山沖でも散発的に漁場ができる可能性がある。11月上旬以降は、漁場が金華山沖まで広がる。11月下旬以降は、三陸北部で断続的となり、南偏傾向となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量：10月下旬には低位水準ながら来遊がある。11月上旬頃本格的な来遊が始まり、中位水準となる。11月下旬から減少傾向となり、12月上旬には低位水準となる。

(2) 漁場：10月下旬は、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。来遊量が増加する11月上旬以降は、常磐北部～鹿島灘が主漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位減少	低位減少	低位水準	断続的	
	漁場	厚岸～釧路沖・襟裳岬周辺～襟裳岬南沖	襟裳岬南沖	襟裳岬南沖	散発的	
三陸海域	来遊量					
	動向	中位水準	中位水準	中位水準	中位減少	低位減少
	漁場	八戸～釜石沖・金華山沖	久慈～金華山沖	久慈～金華山沖	南偏傾向	南偏傾向
常磐海域	来遊量					
	動向	低位水準	中位増加	中位水準	中位減少	低位減少
	漁場	北部	常磐北部～鹿島灘	常磐北部～鹿島灘	常磐北部～鹿島灘	常磐北部～鹿島灘

3. 漁況の経過概要

(10月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、9月下旬を大幅に上回り、高位水準であった前年も上回った。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期半ばの4~5日頃に若干来遊量が減少した他は、連日9月下旬を上回る水準であった。

(2) 漁場

漁場は、落石沖から襟裳岬南沖にかけて広範囲に分布した。

落石南20海里~南東20海里付近の表面水温12~17℃では、小型船の漁場となった。連日ほぼ全船が規定量漁獲した。

厚岸大黒島南南東30海里~南60海里付近の表面水温12~15℃では、小型船主体の漁場となった。大型船も数日のみ数隻操業した。小型船は連日ほぼ全船が規定量漁獲。大型船もほぼ規定量漁獲した。

釧路南南東25海里~襟裳岬東北東40海里付近の表面水温13~15℃では、4日夜まで小型船20~40隻程度と大型船が数隻操業した。小型船・大型船ともにほぼ規定量漁獲した。

襟裳岬南50海里~南南西海里付近の表面水温14~17℃では、ほぼ連日大型船の漁場となった。5日夜~6日夜は30トン程度しか漁獲できなかった船もあったが、その他は規定量漁獲できた船が多かった。

(3) 魚体

30~31cmの大型魚が主体。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、9月下旬を上回って中位水準となり、平年並で、低位水準であった前年を上回った。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、6日夜~8日夜にかけて来遊量が増加した。

(2) 漁場

久慈沖で大型船が操業した。

久慈東北東35海里~東55海里付近の表面水温17~18℃では、6日夜に大型船が十数隻操業。規定量に達する船もあるが、他は20~35トン程度漁獲。

久慈東15海里~20海里付近の表面水温16~17℃では、8日夜に大型船が十数隻、9日夜に大型船が数隻操業。8日夜は規定量に達する船もあった、15トン程度しか漁獲できない船もあった。9日夜の漁獲量は、10トン程度であった。

(3) 魚体

30~31cmの大型魚が主体。